

平成22年3月期 第2四半期決算短信

平成21年11月9日

上場会社名 堺化学工業株式会社
 コード番号 4078 URL <http://www.sakai-chem.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長
 四半期報告書提出予定日 平成21年11月12日

上場取引所 東大

(氏名) 藪中 巖
 (氏名) 福田 健太郎
 配当支払開始予定日

TEL 072-223-4111
 平成21年12月7日

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第2四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第2四半期	39,113	△17.5	2,277	△11.7	2,142	△18.5	862	△23.9
21年3月期第2四半期	47,395	—	2,578	—	2,629	—	1,134	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第2四半期	8.64	—
21年3月期第2四半期	11.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第2四半期	108,470	73,835	60.8	664.74
21年3月期	106,767	73,091	61.2	653.55

(参考) 自己資本 22年3月期第2四半期 65,926百万円 21年3月期 65,341百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
22年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
22年3月期 (予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	80,000	△6.0	4,000	31.3	4,000	33.3	1,800	96.7	18.15

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第2四半期 104,939,559株 21年3月期 104,939,559株

② 期末自己株式数 22年3月期第2四半期 5,763,443株 21年3月期 4,960,513株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第2四半期 99,844,134株 21年3月期第2四半期 100,791,086株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料3ページをご参照ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、在庫調整の一巡やアジア向けなどの対外経済環境の改善もあり、世界的金融危機による景気低迷は底を打った感はあるものの、依然企業収益は低く、加えて設備投資の低調、雇用情勢のさらなる悪化懸念など、先行き予断を許さない状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当グループの業績は、電子部品向け材料など、回復基調で推移したものもありましたが、主用途である自動車・住宅関連向けを中心とした需要の回復には至らず、当第2四半期連結累計期間の売上高は39,113百万円と前年同四半期に比べ8,281百万円(17.5%)の減収となりました。

損益面におきましては、製品価格の是正や高付加価値品の販売強化をはじめ、事業全般にわたるコストダウンなどに注力いたしましたが、売上減に伴う収益低下により、営業利益は2,277百万円と前年同四半期に比べ300百万円(11.7%)、経常利益は2,142百万円と前年同四半期に比べ486百万円(18.5%)、四半期純利益は862百万円と前年同四半期に比べ271百万円(23.9%)の減益となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、108,470百万円と前連結会計年度末に比べ1,702百万円増加しました。これは主として現金及び預金と受取手形及び売掛金が増加したことによるものです。負債は34,634百万円と前連結会計年度末に比べ958百万円増加しました。これは主として支払手形及び買掛金が増加したことによるものです。また、少数株主持分を除く純資産は65,926百万円となり、前連結会計年度末に比べ584百万円増加しました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当連結会計年度の見通しにつきましては、世界的な景気後退局面からは脱し、緩やかな回復に向かうものの、依然企業収益は低く、設備投資の低調や雇用情勢の悪化は続くものと予想されます。

以上の状況を踏まえ、当連結会計年度の業績予想につきましては、売上高80,000百万円、営業利益4,000百万円、経常利益4,000百万円、当期純利益1,800百万円に修正いたします。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(簡便な会計処理)

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末に算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

②たな卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的に算定する方法を部分的に適用しております。

③固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

④繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度決算において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法を適用しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理)

①原価差異の繰延処理

季節的に変動する操業度により発生した原価差異は、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産（その他）として繰り延べております。

②税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

(在外子会社等の収益及び費用の換算方法の変更)

在外子会社等の収益及び費用は、従来、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、在外連結子会社の重要性が増したことに伴い、四半期連結累計期間を通じて発生する収益及び費用の各項目について、より実情に即した換算を行うこと等を目的として行ったものであります。

これによる売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,428	13,597
受取手形及び売掛金	25,675	22,750
商品及び製品	6,923	8,601
仕掛品	2,657	2,789
原材料及び貯蔵品	3,015	3,565
その他	1,050	1,839
貸倒引当金	△102	△96
流動資産合計	54,647	53,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,384	9,821
機械装置及び運搬具（純額）	7,514	8,440
土地	17,234	17,069
その他（純額）	4,671	3,209
有形固定資産合計	39,803	38,540
無形固定資産		
	102	111
投資その他の資産		
投資有価証券	8,007	7,273
その他	6,056	7,964
貸倒引当金	△147	△171
投資その他の資産合計	13,916	15,067
固定資産合計	53,822	53,719
資産合計	108,470	106,767
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,705	7,792
短期借入金	10,026	10,701
未払法人税等	955	373
賞与引当金	1,122	1,165
その他の引当金	96	98
その他	4,693	4,119
流動負債合計	25,598	24,251
固定負債		
長期借入金	2,803	2,950
退職給付引当金	4,853	4,945
その他の引当金	469	592
その他	909	935
固定負債合計	9,035	9,424

（単位：百万円）

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債合計	34,634	33,675
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,838	21,838
資本剰余金	19,311	19,311
利益剰余金	26,527	26,119
自己株式	△2,370	△2,030
株主資本合計	65,307	65,239
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	697	157
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	△78	△55
評価・換算差額等合計	619	102
少数株主持分	7,909	7,750
純資産合計	73,835	73,091
負債純資産合計	108,470	106,767

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	47,395	39,113
売上原価	37,483	30,237
売上総利益	9,911	8,875
販売費及び一般管理費	7,333	6,598
営業利益	2,578	2,277
営業外収益		
受取利息	23	6
受取配当金	125	69
その他	124	187
営業外収益合計	273	263
営業外費用		
支払利息	97	88
為替差損	—	123
その他	125	185
営業外費用合計	222	398
経常利益	2,629	2,142
特別利益		
過年度損益修正益	—	21
固定資産売却益	9	—
投資有価証券売却益	—	7
その他	3	1
特別利益合計	13	30
特別損失		
固定資産除却損	48	—
減損損失	76	—
投資有価証券評価損	—	148
その他	8	—
特別損失合計	132	148
税金等調整前四半期純利益	2,509	2,023
法人税等	1,156	955
少数株主利益	218	206
四半期純利益	1,134	862

- (3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
- (4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。